

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 4 巻第 22 号

第 22 週 ( 5 月 24 日 ~ 5 月 30 日 )

発行年月日:平成16年(2004年) 6月 7日

発行 行 :滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (22週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (22週)	全国 (22週)	滋賀	全国 <sup>(*)</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	5	188	7	459
	腸チフス	0	1	27	0	60
	パラチフス	0	0	32	0	38
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	4	480	8	2635
4類感染症	E型肝炎 <sup>(*)2)</sup>	0	1	8		
	オウム病	0	0	22	1	44
	ツツガムシ病	0	0	75	2	380
	レジオネラ症	0	0	42	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	4	224	3	504
	ウイルス性肝炎	0	1	115	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	66	3	115
	ジアルジア症	0	1	29	0	99
	後天性免疫不全症候群	0	3	404	8	949
	梅毒	0	2	182	2	493
	破傷風	0	1	27	1	69
	急性脳炎	0	0	29	0	98

\*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

\*2: " 感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

### 2)定点把握の対象となる5類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.85	4.00	0	0	0	0	0	0	■ 22週 ■ 21週
A群溶連菌咽頭炎	1.42	0.14	0.50	1.25	5.60	1	0.40	2.50	
感染性胃腸炎	5.21	14.14	7.67	1.75	0.80	2.25	2	1.00	
水痘	1.61	1.86	1.67	0.75	0.80	2.25	2.40	1.00	
手足口病	0.12	0.14	0	0.25	0	0	0	1.00	
伝染性紅斑	0.18	0.43	0	0.75	0	0	0	0	
突発性発疹	0.79	1.43	1.67	0	0.60	0	0.60	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん	0.15	0.14	0.67	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.97	2.57	1.67	0.50	0	0	0.20	0.50	
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.70	1.00	0.67	1.25	0.40	0.50	0.40	0.50	
急性出血性結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0	
流行性角結膜炎	0.29	0	0	1.00	1.00	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.29	0	0	1.00	0	0	1.00	0	
マイコプラズマ肺炎	0.43	0	0	0	0	0	3.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

0 2 4 6  
定点当たり患者数

### 3)今週のトピックス

#### 咽頭結膜熱、A群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎の発生に地域的な偏り ヘルパンギーナの発生は増加のきざし

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(5月17日～5月23日)の報告数よりかなり多くなっています。咽頭結膜熱、A群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、風しん、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎等の発生は先週より増加し、水痘、伝染性紅斑および流行性耳下腺炎の発生は減少しています。

**咽頭結膜熱**については、先週の定点当たり患者数0.48より多くなり0.85となっています。特に、**大津保健所管内**の定点当たり患者数は、先週に引き続き多くなり4.00となっています。

**A群溶連菌咽頭炎**については、**八日市保健所管内**の定点当たり患者数が先週の3.00から急増し今週は5.60と多くなっています。

**感染性胃腸炎**については、増加傾向を示していた今津保健所管内の定点当たり患者数は減少していますが、**大津保健所管内**の定点当たり患者数は14.14と多くなっています。

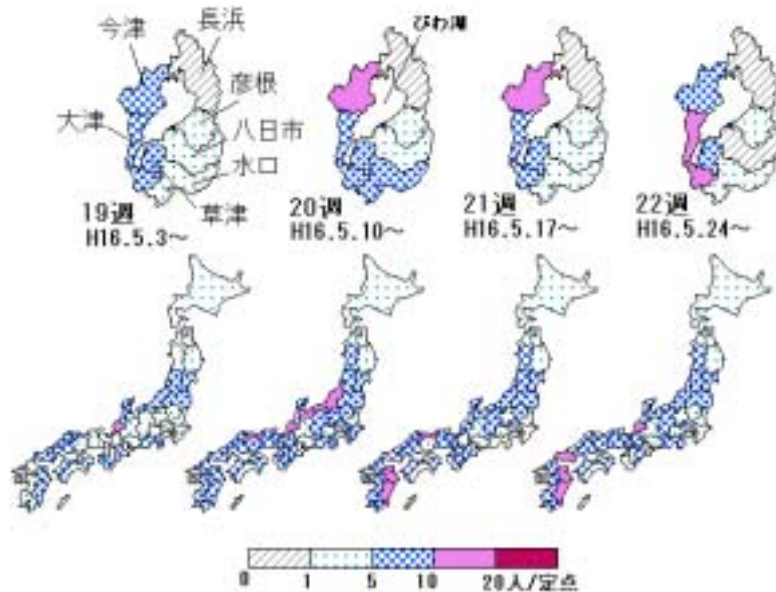
**風しん(三日はしか)**については、定点当たり患者数は先週とほぼ同じ0.15ですが、**草津保健所管内**からの報告がやや多くなっています。

**ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎**については、増加のきざしがみられますので今後の発生動向に注意する必要があります。

#### 定点当たり患者数:

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一つの定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。\*疾患により定点数は異なります。

#### 感染性胃腸炎の週別発生状況(平成16年第19週～第22週、H16.5.3～H16.5.30)



第19～22週の発生状況についてみると、今津、八日市および水口保健所管内では減少傾向となっていますが、大津保健所管内では増加傾向となり第22週の定点当たり患者数は14.14と多くなっています。また、全国の第22週の発生状況についてみると、福井県、山口県、大分県および宮崎県の定点当たり患者数が多くなっています。

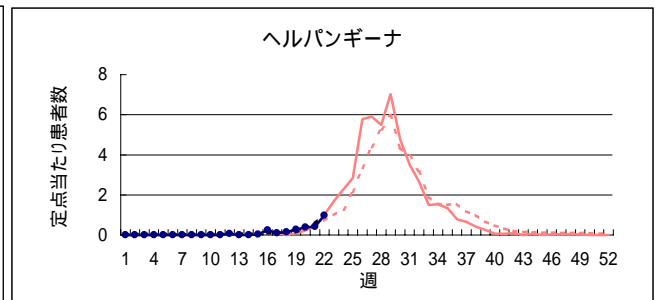
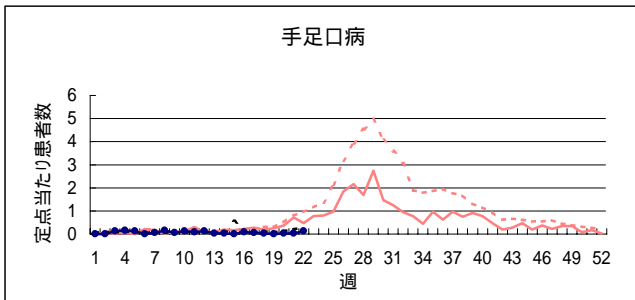
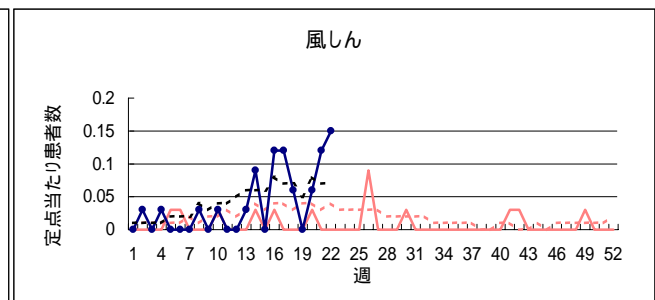
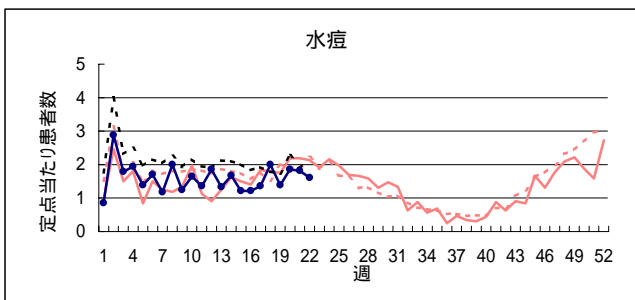
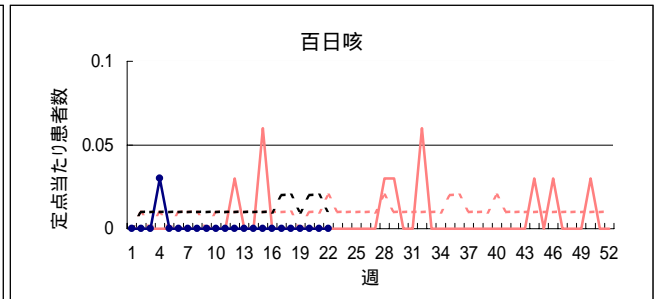
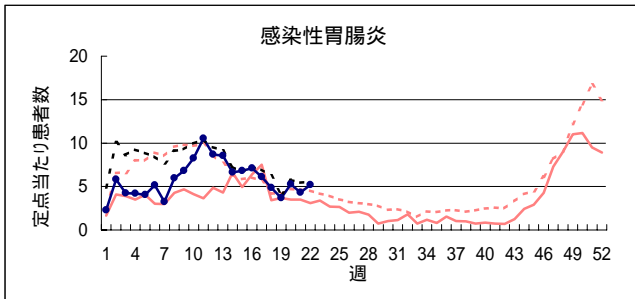
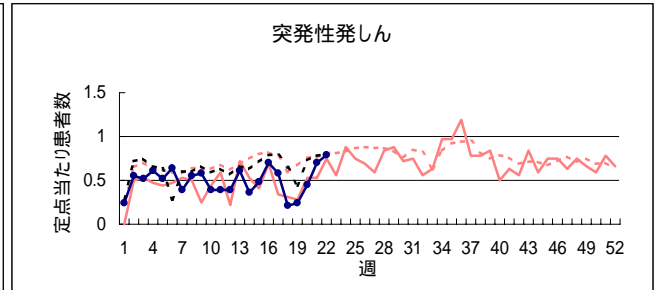
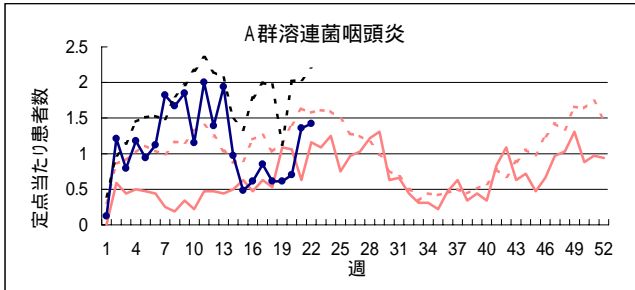
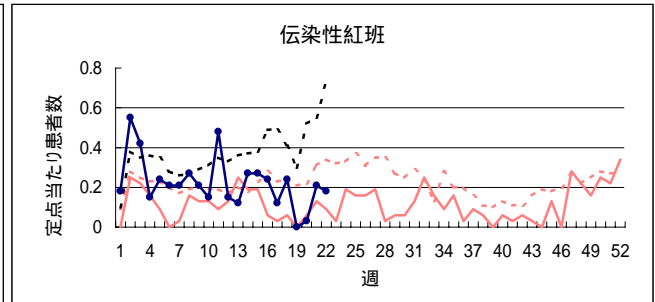
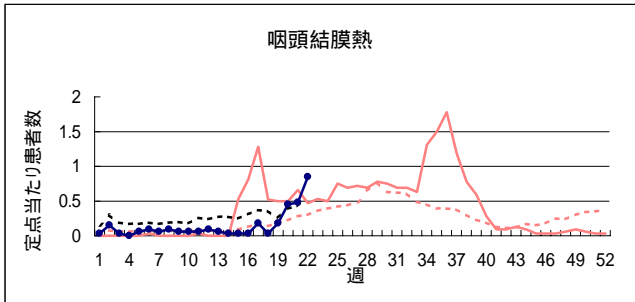
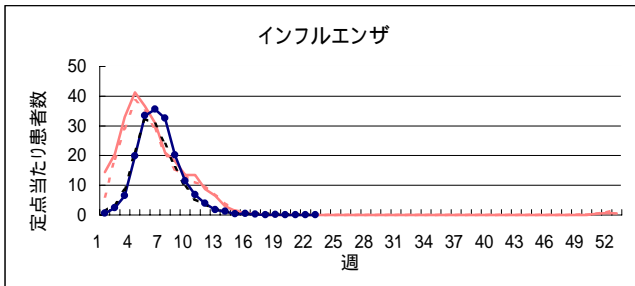
#### ヘルパンギーナのミニ知識

大部分のヘルパンギーナは、コクサッキーA群ウイルスに感染することにより起こる小児の急性ウイルス性咽頭炎です。初夏から秋に流行し、4歳以下の乳幼児に多く発生する夏かぜの一種です。

- ・**感染様式**: 唾液を介する飛沫感染  
便から手 口への感染(糞口感染、接触感染)
- ・**潜伏期**: 2～4日
- ・**臨床症状**: 突然の発熱(38～40度)、咽頭粘膜の発赤  
のどの奥に小水泡(1～5mm)ができます。  
咽頭痛、食欲不振、全身倦怠感
- ・**合併症**: まれに無菌性髄膜炎、急性心筋炎を起こします。

- ・**治療**: 対症療法  
刺激の強い食事を避け、柔らかい食べ物や水分を摂るようにします。
- ・**予防**: 感染者との密接な接触を避け、流行時にはうがいや手指の消毒をします。
- ・**登校、登園のめやす**: 患者の健康状態により判断します。

# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第22週、H15.12.29～H16.5.30)



# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第22週、H15.12.29～H16.5.30)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H16 〔 滋賀 ●——● 全国 ..... 〕

